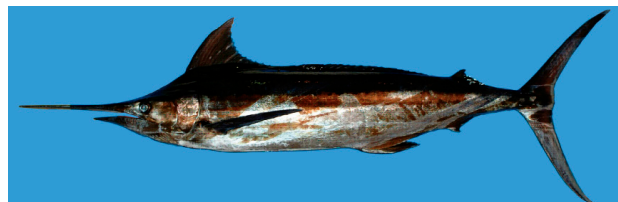


# クロカジキ 大西洋

*Blue Marlin, Makaira nigricans*



## 管理・関係機関

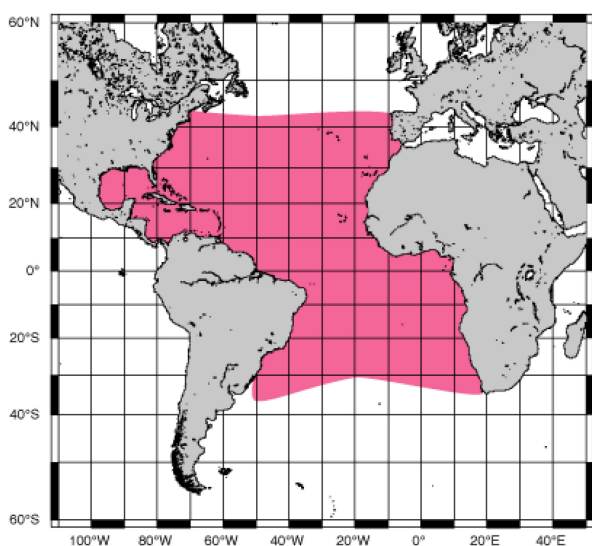
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 体長・体重：下顎叉長 2.8 m・200 kg (雄)、下顎叉長 3.8 m・500 kg (雌)
- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：2～4 歳
- 産卵期・産卵場：夏～秋、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類 (特にさば類)、頭足類
- 捕食者：調査中

## 利用・用途

刺身、切り身 (ステーキ、ソテー)



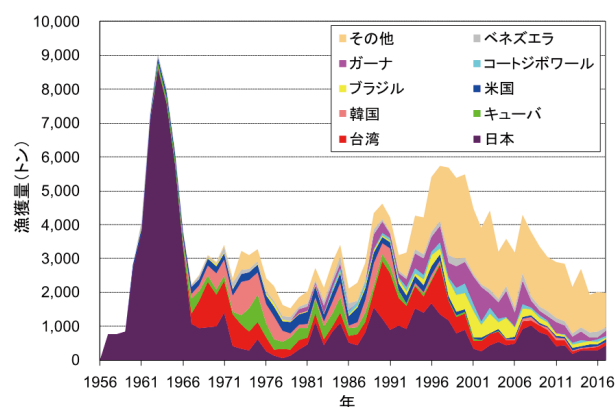
クロカジキ (大西洋) の分布

## 漁業の特徴

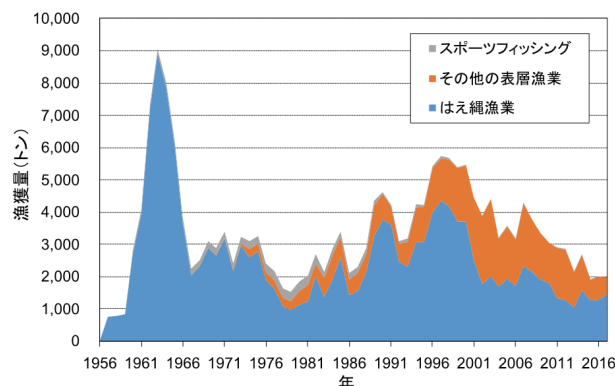
本資源が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジルなどのスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業である。近年の漁獲の多くは、日本や台湾などのまぐろ類を対象としたはえ縄漁業の混獲およびカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸漁業によるものである。

## 漁獲の動向

最新の本資源の漁獲量は 1979～1998 年に増加傾向を示した後、2000 年代中旬まで減少し、その後再び増加したが、2009 年以降は減少傾向を示している。1990 年代半ば～2000 年代半ばには便宜置籍船によるはえ縄の漁獲などが増加した。また、1996 年以降からはガーナ、コートジボワールといった沿岸零細漁業国がまとまった漁獲を上げるなど、近年は新しい漁業国による漁獲が増えている。2017 年の漁獲量は暫定で 1,987 トンであった。日本の漁獲量は、2001 年以降増加の傾向を示し 2008 年に 1,000 トンを上回った。その後、漁獲量は減少しつつも 2017 年は 428 トンを記録し、漁獲量は国別で最多となっている。



大西洋におけるクロカジキの国別漁獲量 (2017 年は暫定値)

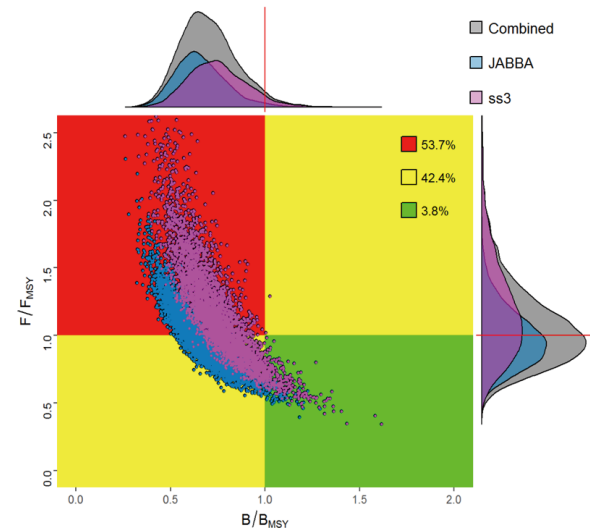


大西洋におけるクロカジキの漁法別の漁獲量 (2017 年は暫定値)

資源状態
資源評価は 2018 年 6 月に ICCAT 科学委員会によって実施された。資源評価には、プロダクションモデルの JABBA と ASPIC および統合モデルの Stock Synthesis 3 (SS3) が用いられ、最終的に JABBA と Stock Synthesis 3 の結果が採用された。これらの資源評価モデルには、データ準備会合で選定された 10 種の漁業の資源量指数が適用された。また、総漁獲は公式統計の TASK1 に未分類のかじき類の漁獲量を考慮したものを用いた。資源評価モデルの結果は、2011 年の資源評価結果と同様に、資源量が乱獲状態であり、漁獲も過剰漁獲状態であることを示した。さらに、ICCAT 科学委員会は、JABBA と SS3 の結果をもとに将来予測も行い、2028 年に 50%以上の確率で資源を MSY レベルにするための TAC (1,750 トン) を算出した。これらの結果を受け、ICCAT 科学委員会は、2011 年の資源評価結果で決定した 2,000 トンの TAC を上回る漁獲が続いたため、資源量は回復しなかったと結論づけた。なお、ICCAT 科学委員会は、この結果に対し、本資源の漁獲量と生産性について不確実性があることを明記している。

管理方策
2018 年に行われた資源評価結果は、現行の TAC を引き下げる必要性を示唆したが、2018 年の ICCAT 年次会合では、大西洋のクロカジキ資源に対して、2019 年の TAC を現行通り 2,000 トンとすることが合意され、放流後の死亡率を最小化するよう取り組むことが勧告された。なお、日本の割当量は年間 390 トンである。割当量の消化が近づいた場合には、生きて漁獲された個体をできるだけ放流後の生存率が高くなるように放流することが勧告された。また、資源解析・評価の実施に当たって問題となった生存放流および死亡投棄個体数の推定方法の報告、スポーツフィッシングについてはオブザーバー乗船（カバー率 5%）、サイズ規制と売買の禁止が勧告されている。

クロカジキ(大西洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	低位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1,925 ～ 2,689 トン 最近 (2017) 年：1,987 トン 平均：2,156 トン (2013 ～ 2017 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	189 ～ 428 トン 最近 (2017) 年：428 トン 平均：296 トン (2013 ～ 2017 年)
管理目標	MSY:目標値 3,056 (2,384 ～ 3,536) トン
資源評価の方法	JABBA および Stock Synthesis 3 による
資源の状態	現在の資源量は乱獲状態であり、漁獲も過剰漁獲状態である。
管理措置	2019 年の TAC を 2,000 トンとする (日本の割当量は 390 トン) スポーツフィッシングについてオブザーバー乗船 (5%)、サイズ規制、漁獲物の売買禁止
最新の資源評価年	2018 年
次回の資源評価年	未定



JABBA、および Stock Synthesis 3 による 2016 年の神戸プロット  
資源状態と管理勧告は JABBA と Stock Synthesis 3 (SS3) の結果  
によって決定された。赤丸は SS3 の結果、青丸は JABBA の結果で  
ある。